

単元名

情報産業とわたしたちの暮らし（東京書籍）

本時6 / 6時間

本時のねらい

育成を目指すプログラミング的思考

放送局から発信される情報の役割や影響について理解することができる。
(知・技)

抽象化



目的に応じて、物事の特徴や要点を抜き出す。
Stage2

本時のねらいとプログラミング的思考との関連性

本時の学習では、プログラミング的思考の中の抽象化の思考を取り入れ、自分の考えをまとめるために、情報の送り手と受け手、それぞれの視点に沿って大切なことを抜き出す活動に取り組む。情報局で働く人々がどんな視点で情報を伝えているのか整理することで、送り手と受け手がそれぞれに大切にすべきことが明確になり、本時のねらいを効果的に達成できる。

学習ツール

Viscuit

Scratch

スライド

スプレッドシート

無

プログラミング的思考に関する活動の流れ
(展開前半を想定)

●教師の発問・指示

◇指導上の留意点

※学習ツールを使用する際の留意点

導入

1 活動内容を確認する。

情報の送り手と受け手のそれぞれの立場にとって何が大切か、まとめよう。

◇ワークシートを印刷して配布する。

●「放送局の学習を通して考えたことをまとめる前に、情報の送り手と受け手にとって大切なことをまとめましょう。」

◇本時の最後に自分の考えを書くという活動を行うことを伝え、学習に見通しを持たせる。

2 放送局で働く人々にはどんな役割の人がいたか、整理する。

◇毎日様々な出来事が起こっていること、それを伝えようとする人がいることを復習させ、どんな役割の人がいたか、教科書から抜き出させる。

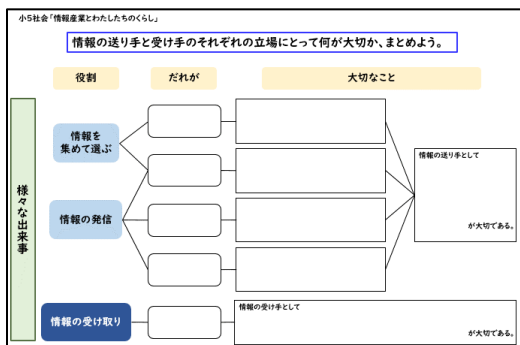
3 それぞれの役割の人がどんなことを大切に考えているか、整理する。

●「それぞれの役割の人が、どんなことを大切に情報を送ったり受け取ったりしているか、整理しましょう。」

◇それぞれの役割について確認した上で、大切にしていることはどんなことだったか整理させる。

◇なかなか書けない児童には、それぞれの役割の人の考えに当たる部分を、教科書やノートから見付けて抜き出すよう声掛けをする。

展開



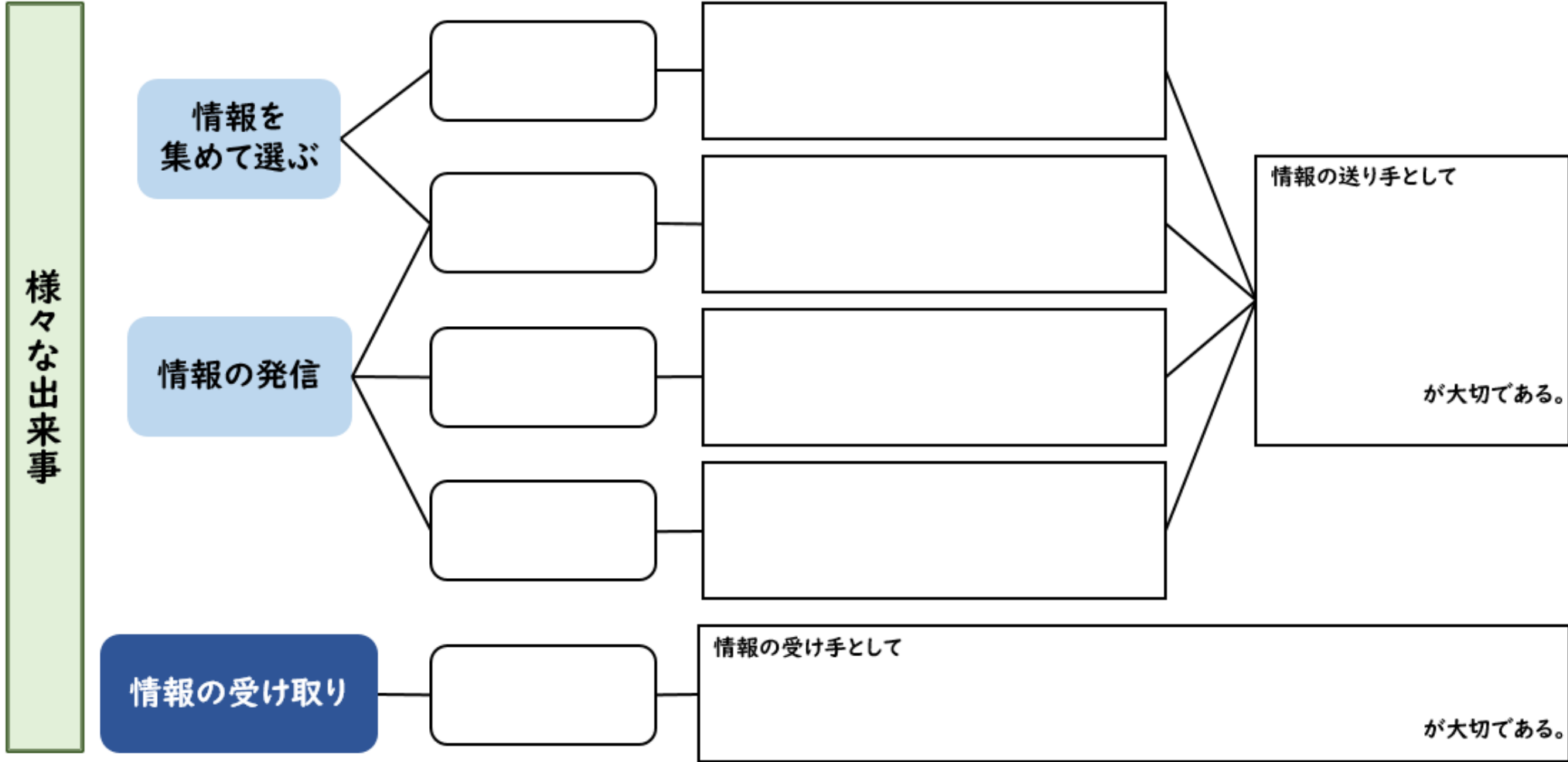
4 情報の送り手として大切なことと、情報の受け手として大切なことをまとめる。

●「情報の送り手として大切なこと、情報の受け手として大切なことをまとめましょう。」

◇記者、編集長、映像編集者、アナウンサーのそれぞれが共通して大切にしていることを押さえ、自分が送り手となる可能性もあることに気付かせる。

終末

情報の送り手と受け手のそれぞれの立場にとって何が大切か、まとめよう。



情報の送り手と受け手のそれぞれの立場にとって何が大切か、まとめよう。

